プラスチック再生設備「CLIP」

ら日本でも普及しており、すでに百数十台が

ロセッサー」の販売を開始した。天然鉱石を触媒として使用するためバクテリアは不要。

0台の採用を目指す。

同装置は、触媒を定量入れた装置内に130—150度Cの熱風

触媒に天然鉱石十数種類の混合物で、化学反応により生ごみを分解する。水分は熱風で

の連続投入、高速処理を実現した。魚類・野菜・肉・調味料・残飯などは30分—1時間以

関東中心に約200件

再生利用の異物、樹脂付きのもの　使用済みスクリーン回収

石川金網

石川金網（本社・東京、石川幸男社長、☎03・3807・9761）は、同社製の使用済み金網（スクリーン）回収・リサイクルについて、関東エリアを中心に現在約200件にまでサービスを広げた。石川社長は「関東エリアは何とかカバーできるようになった。各地に約1000件の顧客があるため、将来的には全国を視野に取り組みを進めたい」と述べている。

同社は1922年（大正11年）の創業で、プラスチック押出機用などのスクリーン（IKスクリーン）をはじめ、デザインパンチングパネル、自動車や各種工業用フィルター、メタル・ワイヤー加工品の製造販売を手掛ける業界の大手企業。顧客は押出機メーカーや化学工業、プラスチック工業、電線工業、合成繊維工業、ゴム工業、フィルム工業など幅広い。

スクリーンは、プラスチックマテリアルリサイクルの再生ペレット製造ではプラスチックスクラップ中の異物やごみ、シート加工では樹脂のゲル状物、コンパウンドでは同様にゲル状物を取り除くために使われる。

使用済みスクリーンの回収・リサイクルは同社の顧客に対して行っているスクリーン関連ソリューションの一環で、2008年から始めた。プラスチックのマテリアルリサイクル会社などもサービスを受けている。

プラスチック樹脂や異物などが付着した使用済みのIKスクリーンを廃棄処分せず、金属スクラップとしてリサイクルする。回収については指定の産業廃棄物収集運搬業者、リサイクルは提携先の金属精錬所で製鋼原料として再資源化する。精錬された金属は市場に流通し、その一部は同社のIKスクリーンに加工される。

まず、顧客にステンレスとその他金属を正確に分別してもらい、付着した樹脂はスクリーン表面が見える程度までそぎ落としてもらう。これを容量1000リットルのフレコンバッグに詰めてもらう。満載の大口だけでなく小口の依頼にも対応し、同社のシステムで回収する。顧客の費用負担は要らない。

近年、プラスチックリサイクルでは、工場系や物流系、建設系の端材、スクラップの他に、資源有効利用促進法や容器包装リサイクル法などリサイクルの法制度が施行されたことに伴い、原料となる廃プラスチックの幅が広がった。一方で、マテリアルリサイクルで利用する場合は、グレードが低く、汚れや異物が混ざった廃プラも扱うようになり、異物除去の役割が大きくなっている。

スクリーンの例

1日当力が15までの4した。処横幅70リ、奥行200リ設計。いの連続投

ミヤモト商店

建機用の販売トの販売を手掛け店（大阪信夫社長650・ドライア